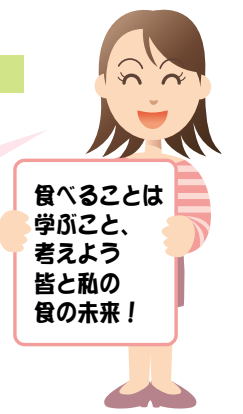




食べて元気、わかやま 食育推進プラン (概要)



和歌山県における食育推進計画策定の背景

県内においても県民にとって毎日欠かせない「食」を巡るさまざまな問題があります。

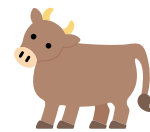
- 朝食の欠食をはじめとする不規則な食事や食事バランスの乱れによる生活習慣病の増加 (平均寿命が短い (男女とも全国41位 (2000年))
- 学校給食の実施率が低く (小学校: 90.3% (全国47位)、中学校: 52.2% (全国46位)、県外の大学・短大への進学率が高い (全国1位))
- 食料の生産を支える農業者、漁業者の減少 (食料自給率の低下: 40%(全国))
- 伝統的食文化の喪失
- 食を大切にしている心の欠如 (食べ残し、食品ロスの増加)
- 食品の安全性への不安 (しかし、若年層の消費行動においては「経済性重視」)
- 地産地消に対する関心の高まり



基本方針

県民みんなが学び、理解し、実践できる食育の推進

行政、家庭、保育所・幼稚園・学校及び地域がみんなで支え合い、県民一人ひとりが心身ともに健全で豊かな生活を送るため、また食育を県民運動として取り組んでいくため基本方針を掲げました。

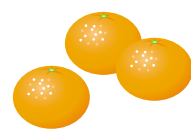


家庭でできる取組です

- ・ 一日三食の規則正しい食事
- ・ 家族と一緒に食卓を囲み、楽しい雰囲気でする
- ・ 食前食後の挨拶や食前の手洗いなど、気持ちよく食事をするマナーを伝える

重視する視点

- ① 生涯を通じた健康づくりのための食育
- ② 家庭、保育所・幼稚園・学校、地域が連携した食育
- ③ 県の農林水産物と地域の食文化に根ざした食育
- ④ 食の安全・安心に支えられた食育



施策展開の方向

- ① 家庭における食育の推進
- ② 保育所・幼稚園・学校における食育の推進
- ③ 地域における食育の推進
- ④ 和歌山の農林水産業に根ざした食育の推進
- ⑤ 県民運動としての食育の推進



和歌山県食育推進月間

和歌山県では、毎年10月を「和歌山県食育推進月間」と定め、「食べることは学ぶこと、考えよう皆と私の食の未来!」をスローガンに運動を展開します。

和歌山県の食育の推進目標 (目標年次:平成23年度)

食育推進の達成状況を把握・評価できるよう、主要な項目について目標値を設けました。

①	食育に関心を持っている県民の割合の増加	85.7%	➔	90%以上
②	朝食を欠食する県民の割合の減少	小学生: 8.9% 20歳代男性: 16.7%	➔	0% 15%以下
③	学校給食 (完全給食) の実施率の増加	小学校: 90.3% 中学校: 52.2%	➔	100% 80%
④	学校給食における地場産物を使用する割合の増加	32%	➔	40%
⑤	小・中学校における食に関する年間指導計画の作成割合の増加	39%	➔	100%
⑥	栄養教諭の配置割合の増加 (紀北、紀中、紀南の各地域)	0%	➔	100%
⑦	「食事バランスガイド」等を参考に食生活を送っている県民の割合の増加	-	➔	60%以上
⑧	メタボリックシンドローム (内臓脂肪症候群) を認知している県民の割合の増加	53.7%	➔	80%以上
⑨	食育の推進に関わるボランティアの数の増加	1,907人	➔	2,500人以上
⑩	食品の安全性に関する基礎的な知識を持っている県民の割合の増加	68%	➔	80%以上
⑪	成人の1日あたりの野菜類の平均摂取量の増加	183g	➔	350g以上
⑫	1日あたりの果物類の平均摂取量の増加	180g	➔	200g
⑬	成人肥満者の減少	男性: 27.2% 女性: 16.6%	➔	15%以下 10%以下
⑭	女性のやせの者の減少	20歳代: 19.5% 30歳代: 17.6%	➔	15%以下 15%以下
⑮	市町村推進計画の作成割合の増加	0%	➔	100%

ライフステージに応じた食育の取組

乳幼児期から高齢期まで、発育・発達段階に応じた6つのライフステージに区分し、それぞれの食育推進のテーマを設けました。

ライフステージ	年齢区分	食育推進のテーマ
乳幼児期	0～5歳	食に関する基礎づくり
小・中学校期	6～15歳	食の基本的な知識・食行動の習得
高等学校期	16～18歳	食に関する自己管理能力の育成
青年期	19～39歳	健全な食生活の実践
壮年期	40～64歳	食生活の見直しと健康維持
高齢期	65歳～	健康状態に合わせた食生活の実践

朝ご飯食べた?

